

ナシ「秋麗」導入時における中間台品種の適否と新植後の早期多収のための整枝法

ナシ「秋麗」を高接ぎにより導入する際は、「新高」,「豊水」いずれを中間台としても、着果や果実品質に大きな差はないことから、両品種ともに中間台として利用できる。また、新植する際には、4本主枝改良H字形整枝にすると、2本主枝一文字整枝に比べて初期収量が多い。

農業研究センター果樹研究所落葉果樹研究室 (担当者: 岩谷章生)

研究のねらい

平成18年に県推奨品種になった「秋麗」は、高糖度で食味が極めて優れる青ナシである。本品種は現在、高接ぎ、新植により導入が進められているが、栽培方法に関しての知見が乏しいため、中間台の影響や最適な整枝法は明らかではない。そこで、「秋麗」の円滑な導入を促進するため、「秋麗」を高接ぎする場合の中間台品種の適否を明らかにするとともに、「秋麗」を新植した場合の最適な整枝法を明らかにする。

研究の成果

1. 「新高」および「豊水」中間台とも、高接ぎ3～5年目(着果1～3年目)までは、果実品質に大きな差はない(表1)。
2. 植栽4～6年目の累計収量は、2本主枝一文字整枝に比べて4本主枝改良H字形整枝が1樹当たりで2倍程度、10a当たりで1.5倍程度多い(表2)。また、整枝法による果実品質への差はみられない(表3)。
3. 4本主枝改良H字形整枝は、主枝が平行に配置されるため、慣行の3本主枝整枝に比べて、せん定作業時の側枝誘引の煩雑さは少なくなる(データ略)。

普及上の留意点

1. 本試験では、側枝全てに高接ぎ(一挙更新)をしたが、側枝を残して高接ぎ更新(漸次更新)する場合、本試験並みの収量は得られない。
2. 2本主枝1文字整枝では列間6～7m、株間3m(10a当たり51本)、4本主枝改良H字形整枝は列間5m程度、株間5m(10a当たり40本)での植栽が適する。

表1 中間台品種の違いが「秋麗」の1果重および果実品質に及ぼす影響

中間台品種	1果重 (g)	果肉硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	果皮色 ^z
豊水	401	4.5	13.6	2.7
新高	364	4.4	14.3	2.9

注) データは2008～2010年の平均

z) ていあ部の果皮色をニホンナシ地色カラーチャートで比色

表2 「秋麗」若木期の整枝法の違いと収量

	1樹当たり収量(kg)				10a当たり換算収量(kg)			
	5年生	6年生	7年生	計	5年生	6年生	7年生	計
2本主枝一文字整枝(A)	9.4	9.8	16.5	35.7	479	501	841	1821
4本主枝改良H字形整枝(B)	18.0	19.6	28.9	66.4	720	782	1154	2657
対比(A/B, %)	191	199	175	186	150	156	137	146

注) 10a当たりの換算収量は1樹当たり収量に10a当たりの植栽本数(A:51本、B:40本)を乗じて算出

表3 整枝法が「秋麗」の1果重および果実品質に及ぼす影響

整枝法	1果重 (g)	果肉硬度 (lbs)	糖度 (Brix)	果皮色 ^z
2本主枝一文字整枝	342	4.6	14.6	2.8
4本主枝改良H字形整枝	333	4.8	14.6	2.9

注) データは2008～2010年の平均

z) ていあ部の果皮色をニホンナシ地色カラーチャートで比色

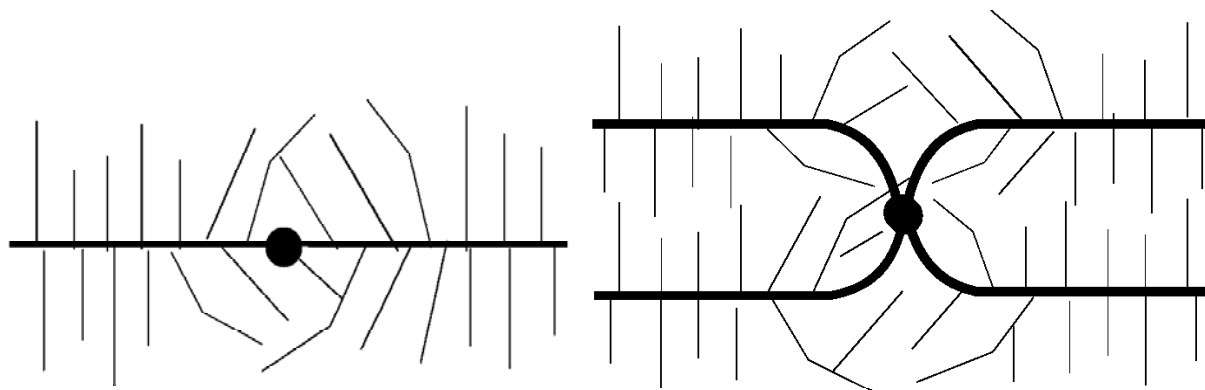


図1 2本主枝一文字整枝(左)と4本主枝改良H字形整枝(右)の樹形比較